トビタテ！留学JAPAN　日本代表プログラム　留学状況報告書

※留学状況報告書はExcelデータで提出してください。（ファイル名：留学状況報告書_第●期_学生個人番号_学生氏名.xlsx）

●基本情報

学生個人番号	S151N176010003
氏名(漢字)	中村有紀子
氏名(ひらがな)	なかむらゆきこ
所属大学等名	宮崎大学
所属学部/研究科/学科	農学部
所属学科/専攻/コース	獣医学科
課程(▼で選択)	学部
留学修了時の学年(○年)	6年
期　(○期)	2期
コース　(▼で選択)	理系、複合・融合系人材コース
留学開始日(yyyy/mm/dd)	2015/08/10
留学終了日(yyyy/mm/dd)	2016/03/16

●留学の活動概要と成果

活動概要と成果 **※主要な留学先を2か所記入してください。** **2か所を超える場合は、ページ下部にある「活動概要と成果（予備）に記載してください**			
	1	国名	ケニア
		都市名	ナイロビ
		受入機関名	International Livestock Research Institute (ILRI)
		期間 (yyyy/mm/dd)	2015/08/10～2016/03/16
		活動概要と成果	ILRIでは、当初の計画通りUrban Zoo Projectの野生動物チームにインターンとして参加し、主にフィールドワークを行った。ナイロビ内を経済レベルに合わせて7段階に分け、合計99件の家に出向いてサンプリングを行う、という内容で、私が留学していた期間で45件が終了した。サンプリングとしては鳥、げっ歯類、コウモリを対象とし、このうちげっ歯類とコウモリはILRIに持ち帰り、解剖を行った。成果として、野生動物の捕獲技術およびハンドリング、サンプリング技術を習得することができた。また、解剖の手法も習得することができた。 さらに、鳥のCampylobacter spp.の疫学調査を独自のプロジェクトとして開始した。サンプリングは帰国後も継続されているため、帰国後もILRIのチームメンバーと連絡を取り、解析を行ったのちに論文を作成する予定である。
	2	国名	ケニア
		都市名	ナイロビ
		受入機関名	長崎大学熱帯医学研究所ケニア拠点
		期間 (yyyy/mm/dd)	2016/02/11～2016/02/12
		活動概要と成果	熱帯医学研究所ケニア拠点では実施されているプロジェクトについての講義や施設見学をさせて頂いた。蚊やダニの飼育施設も見学し、実習としてダニの解剖を行った。ベクター媒介性疾病はアフリカで流行しており研究が進んでいるが、日本では在学中に学ぶ機会は少ない。 これまで人獣共通感染症についての研究をしたい、と広く考えていたが、ベクター媒介性疾病にテーマを絞って進路を決める決心ができた。

<table>
<tr><td rowspan="3">日本発信プロジェクト
活動概要と成果
※事前課題P22と研修で検討した内容をもとに記載してください</td><td>活動タイトル
(30文字以内)</td><td>名刺・折り鶴配布プロジェクト</td></tr>
<tr><td>実行したこと</td><td>各サンプリング地に出向く際、現地で出会う人と交流を図るため、名刺を配布し、同時に子供たちには折り鶴をプレゼントした。途中から、自身の安全面およびプライバシー保護のため、名刺の配布は止め、会話によるコミュニケーションだけをとるようになった。</td></tr>
<tr><td>成果・
気づいたこと</td><td>日本に関する知識の偏りに驚いた。アフリカでは中国人の人口が日本人に比べて圧倒的に多いため、出会うケニア人からはほぼ100%チャイニーズ？と聞かれるほどであった。日本に関してどのような知識があるのか、話してみると大体の人が空手等のマーシャルアーツ、忍者、ヤクザ等の、映画で見たことのあるものがイメージとして定着しているようであった。色んな人と一人一人直接話して、日本について話すことで少しでも彼らの日本に対する知識を増やすことができたのではないかと思う。</td></tr>
<tr><td colspan="2">留学中および帰国後の活動を通じて最も成長した経験とそこから学んだこと
※事後研修事前課題・事後研修の内容を踏まえて記入してください
※具体的な経験エピソードをもとに記入してください</td><td>成長した価値観としては、ワークライフ・バランスと社会活動がある。まずワークライフ・バランスについては、日本にいるときは研究と家庭の両立は自分にはできないと感じていたが、ケニアでであった女性研究者は時間と気持ちに余裕をもって子育てをしながら研究を行い、実績を残していた。現在の日本の常識に囚われず、研究と家庭の両立を目指して進んでいきたい。やりたいことができる環境に飛び込んでいきたい。
また、フィールドワークをしながら、治安の悪い地域は若者が仕事をせずに酒・薬などに溺れ、暴力が日常的である地域であると感じた。そこで育つ子供はそのような大人の背中を見て育ち、それが彼らの世界になってしまうと思うと、子供だけでなく成年の教育・就職が重要であると感じた。専門的な研究だけをして生きていくのではなく、社会活動にも目を向けていきたいと思った。
成長した能力としては、フィールドワークの組み立て方がある。実際にフィールドワークを行うまでに必要な準備、始まってからのトラブルの対処等、これまで経験することのなかったことを経験することができた。次からは自分の研究を組み立てるときに役立てたい。また、国際機関で研究活動をしたことで多様なバックグラウンドを持つ研究者の中で一緒に働く自信が付いた。</td></tr>
<tr><td colspan="2">あなたにとっての留学の価値
※事後研修事前課題・事後研修の内容を踏まえて記入してください</td><td>私にとっての留学の価値は二つある。
まず一つ目は、自分のやりたいこと、成し遂げたいことに共感したり、応援してくれる人に出会えることである。留学先で出会う人たちは自分と興味を持っていることが似ていたり、海外に出ることの苦労や楽しさを知っている人が多いため、自然と共感したり応援してくれる人に出会えると思う。そうすると、友達や仲間が増え、自信を持てるようになる。
二つ目は、新しい環境に身を置くことで、新しい疑問が生まれやすく、その疑問を解決したいという意欲が湧いてくることである。そうすると、視野が広がり新しい価値観が生まれる。そして行動の指針となる。</td></tr>
</table>

●留学機運醸成に向けた活動

エヴァンジェリスト活動企画 **※事前課題P○と研修で検討した内容をもとに記載してくださ**	カテゴリ	イベント（大学等）
	活動タイトル （30字以内）	オープンキャンパス
	対象者・人数	高校生とその保護者
	実施場所	宮崎大学木花キャンパス
	実施時期	2016/8/10－11
	内容	宮崎大学のオープンキャンパスでトビタテのパンフレットの配布および説明/相談ブースの設置を行う。
	達成目標	パンフレット100枚配布 ブース来場者2日間で合計50人 高校生に留学の意識を芽生えさせ、保護者の理解を深める
	実施に向けたアクションプラン	大学の承認を得る(承認済み) 参加メンバーの把握・紹介ビデオの作成(7月中) 備品の確保